

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200628		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	グループホーム ひだまり (1階)		
所在地	岡山県倉敷市連島1丁目1-13		
自己評価作成日	平成 25年 7月 29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=3390200628-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25年 9月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、入居者様には積極的に家事(掃除、洗濯干し等)が行えるよう、支援しています。また、土いじりを通じ、認知症進行緩和のお手伝いをすると共に、育てる楽しさ、収穫の楽しさを肌で感じて頂いています。個々のニーズに合わせ、正面から向き合い、ご家族と共に考え、共に笑いあう様な『心のひだまり』になれるよう、努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地の中に、同法人の福祉センターに隣接した2階建ての事業所である。法人では高齢者専用住宅やデイサービス、小規模多機能型居宅介護事業所など多様な福祉サービスを展開しており、地域の高齢化に柔軟に対応できる事業所としても信頼されている。また、福祉の専門学校も運営しており、福祉を目指す学生がグループホームに実習やボランティアにたびたび訪れ、レクリエーションやリハビリ体操など行っており、利用者の楽しみの一つになっている。家庭菜園では地域の方にアドバイスをもらいながら、野菜を育てる楽しみを感じてもらい、旬の食材として利用者の食事に活用し、喜ばれている。日中は玄関を開けており、家族がいつでも自由に訪問でき、地域にも開かれた事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(1階ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	社会福祉法人 薫風会 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所指針をあげ、職員一同で実践に努めている。理念の理解が十分できていない所もあるため、再度確認をしていく。	事業所の理念は職員が考えたものとなっている。『ひだまり指針』として事業所の入り口に掲示している。研修時に振り返る機会を設け、職員全体が「心のひだまりになれるように」を最終目標とし、笑顔で日々の支援を心かけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時あいさつや農家の方と作物の育て方について話をしたりしている。参加可能行事には積極的に参加する様、努めている。	1日2回、散歩に行き、地域の方と挨拶をしたり、事業所で取り組んでいる家庭菜園についての質問をしたりと、交流を図っている。地域の行事への参加やボランティアの訪問、地域のコミュニティーハウスの演芸を観に行くこともある。同一法人の運営する専門学校の学生の訪問もあり、利用者がとても楽しみにしている。	ボランティア、実習として学生の訪問があり、若い力が利用者の元気につながっています。法人の組織力を活用されており、今後も継続できる事を期待します。業務の振り返りにもつながっているとのことで、職員にとっても、とても良い機会になっていると思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅生活の方のご家族からの相談等には助言等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのご意見、ご要望は速やかにサービスに取り入れている。	2ヶ月に1回開催しており、法人内の他事業所も参加している。参加者は民生委員、家族、高齢者支援センター、水島病院看護部長等である。平日に実施しているので家族の参加は少なくなっている。書面や電話で案内を出し、研修の内容も知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状ではできていない。今後はもっと積極的に相談等行っていきたい。	市の介護保険課の担当者とは何かあれば随時連絡をしている。また、研修の情報もあり、参加できるものには参加している。地域包括センターの担当者とは良好な関係が築かれており、空き状況などの意見交換もできている。	介護保険課の担当者へ運営推進会議の案内は今の所、出していないと伺いました今後は事業所の事を知ってもらうためにも、参加の案内や議事録を提出してみてもはどうでしょうか。検討をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要以上の身体拘束は行っていない。研修を通し、職員間で周知徹底している。	昼間は玄関の施錠はしていない。身体拘束をしない介護を心がけている。マニュアルも作成、定期的に事業所独自の研修会を実施し、勉強や振り返りの機会を持っている。言葉による拘束の面も検討している。帰宅願望など、本人の外に出たい気持ちを職員が受け止めて、一緒に散歩するなど気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、資料により虐待のないよう指導している。入居者様、職員のストレスにも気を配っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、成年後見制度を活用する。職員にもミーティング等にて説明をする。解りやすく研修を重ね、全員が周知出来る様、努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族には説明し、十分理解、納得して頂いた後、契約する様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口横に苦情箱を設置している。公的機関も紹介している。寄せられたご意見に対し、しっかり受け止め迅速に対応している。	意見箱を玄関に設置しているが、今のところ利用がない。家族アンケートを実施し、要望を聞いている。また、家族の面会時に要望や意見を聞き、迅速に対応している。事業所の行事参加を家族にお願いしたら、手ごたえがあり、母の日の行事にも参加、お手伝いもして頂いた。そのことがミニ家族会のきっかけとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、問題点を話し合い、ケア統一できる様に努めている。	各ユニットでリーダーが中心となってミーティングを実施している。出された意見については、即時対応できるものは対応、検討が必要なものは法人に伺い書を出して対応している。職員の個人的な相談に応じる機会もあり、処遇面でも意見が活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個別面談により働きやすい職場になる様、努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。必要に応じ、繰り返し研修を行い、チーム全体に知識、技術が浸透するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム分科会に参加し、情報交換を行っている。同法人内のグループホームと定期的にミーティングを行い、サービスの質の向上に努力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自己啓発できる入居者様にはしっかり要望を聞き、確認しているが、意思疎通困難な方は、行動、表情からくみ取っているものの難しい所がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とこまめに連絡を取り、その都度要望に対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にはホーム生活に慣れてもらう様、支援する。個別ケアにて個々のニーズに合わせ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様としっかりコミュニケーションを取りながら、出来る事を無理のない範囲で行ってもらい、過剰な介護にならない様、指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事にご家族様の参加、ご協力にて行っている。一緒に過ごす機会を多く持ち、ご家族にも役割を持ってもらえるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の友人の面会、以前より参加していたサークル活動に参加している方もいる。今後も継続できるよう、声かけを行っている。	利用者は地域の方が多いため、友人や知人の訪問が多い。利用前から生け花サークルに所属している利用者がおられ、メンバーが迎えてに来てくれ、今も通っている。年賀状や手紙のやり取りも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事を1階、2階合同で行い、入居者同士のふれあいの場を多くもっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後も本人の様子を見に行き、必要に応じ、法人グループ施設への紹介など継続した関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見、希望を聞き、できる限り、意向にそえる様、支援している。	利用者から意見や要望を聞いている。うまく表現ができない利用者は表情を見ながら、気持ちを推測している。家族から生活歴を聞き、本人の好きなことや以前やっていた事など聞き、職員間で情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンド表、ご本人様、ご家族様より具体的な情報を聞き、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を詳細に記入し、個別の生活状態、精神状態等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望、要望を取り入れ、その人らしく生活できる様プランを考えている。日常的に職員間で話し合い、プランの見直し等に努めている。	6ヶ月毎にプランを見直し、カンファレンスを行っている。担当職員が利用者のモニタリング記録を書いて評価し、意見交換し現状にあったプランを作成している。サービス内容は細かく記載されており、職員が統一した支援ができるよう配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡ノート、口頭伝達などを活用し、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対し、対応可能範囲内できる限り取り組んでいくよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、情報交換を行い、参加可能な行事には積極的に参加している。町内会との協働は難しい所がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院への受診、往診には職員が代行にて付き添うが、診療科目にない受診についてはご家族に同行して頂いている。	利用開始時に協力医療機関に変更する機会が多いが、本人や家族の希望があればかかりつけ医の継続もできる。協力医療機関より2週間に1度、往診がある。眼科や耳鼻科は基本的に家族対応としている。看護師は配置していないが、何かあれば隣接する同法人のサービス事業所から看護師の協力も得ることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。協力病院の看護師へ相談し、受診指示を受ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的にケースワーカーや看護師と連携を図っている。入退院時にはスムーズな対応ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。チームカンファレンスにより、医療、介護面で重度化した場合は法人内の事業所にて対応出来るよう調整している。	今現在、看取り支援は実施していない。重度化や看取り支援が必要になった場合は、法人内の看取り支援を行っている事業所へスムーズに転居できるよう配慮している。法人全体で最期まで支援を行っていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。毎日、申し送り時、マニュアルに添い、対応方法を繰り返し徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様参加にて訓練を行っている。避難経路、方法のマニュアルに添い、毎日訓練している。消火器、スプリンクラーを整え、火事を起こさない様指導している。	年に2回、火災を想定して福祉センター全体で訓練を実施している。火災時には法人全体で救援活動を行っている。消火器の使い方なども指導がある。津波(水害)の場合には5階へ誘導するなど対策を検討している。地域の避難場所となっているが、まだ具体的な話し合いはできていない。法人内には毛布や備蓄の食糧も用意している。	福祉センター全体で行う避難訓練だけでなく、事業所だけの避難訓練も実施が必要かと思われます。夜間帯を想定した訓練の実施や近隣住民との協力体制等、今後の検討をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、態度には十分尊敬の念を持って行っている。個人的な話については自室にて話すようにしている。	声かけや、言葉使いには十分な配慮をしている。接遇マナーの研修も実施している。電話の対応など管理者から指導をしている。職員同士の会話も利用者に不快な思いさせないように気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により言葉で表せない方の要望をしっかりとくみ取れる様、支援している。自分でできる所は時間がかかっても自分で選んでもらう様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるものの、ご本人の要望、体調等によりゆっくり過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に、気温、季節にあったものを選んで。月1度、訪問美容を手配し、毛染め、パーマ等おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事準備は難しいが、食後の片付け、食器洗いなど、無理のない範囲でお手伝いを楽しんで頂いている。	基本的に法人の厨房で調理をし、炊飯は事業所で行っている。おやつは週3回手作りを実施、土曜、日曜は食事が手作りになっている。利用者に好みを聞き、献立をたてている。食事の量は1人ひとりの食べられる量に合わせ、完食することで満足感を感じてもらえるように配慮している。	これまで全員で一緒に食べられるような食事を選ぶのが難しく、外食などには行ってないと伺いました。少人数のグループ毎に楽しむことができる外食を企画してはいかがでしょうか。家族にも協力をお願いし、一緒に楽しめる機会となることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量、嗜好に合わせて個別対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後毎回、声かけ、見守りにより、自分で行って頂く。義歯の方は每晚洗浄液を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけによりトイレ誘導をしている。職員間でも声をかけあい、誘導時の声かけにも工夫し、全員が同じ支援ができるようにしている。	出来るだけトイレで排泄をしてもらうため、声かけをし、トイレ誘導を実施している。また、できるだけ本人の力を活かし、自立支援を心がけている。金銭的な負担軽減のため、パットの使用についても検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理録に排便の有無を記入し、個々のパターン把握に努めている。細目に水分補給を行い、散歩などによる運動にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は一応決めているが、本人の希望により随時対応している。入浴時間帯は日中に行っているが、ゆっくり入浴して頂くよう順番や入浴方法を個別対応している。	基本的に週2回程度、入浴支援をしている。本人の希望や、体調に合わせて柔軟に対応している。毎日入浴したいという希望があれば、対応していく予定である。入浴剤で楽しんでもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースですごしてもらっている。昼夜逆転傾向の方には日中活動できる様考慮し、夜、ゆっくり休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っている。説明書は記録簿にはさみ、情報共有している。服薬確認は職員2名で行い、ダブルチェックにて誤薬を防いでいる。飲み込み確認をする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならない程度のお手伝いをして頂き、役割分担をしている。個々の希望を取り入れ、レクリエーションも提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外できる限り散歩に行っている。ご家族の協力を得、外出している人も多い。車の使用時間に制限があり、外出にも制限がでてしまう。	午前と午後、1日2回散歩を実施している。事業所の家庭菜園に行ったり、庭やテラスを散策することもある。今後は近所への買い物やドライブへ行くことも検討中である。また、個別アクティビティの1つとして一人一人の利用者に合わせた外出支援を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がほとんどいない。何人かの方はご家族と相談の上、少額の金銭所持し、買い物時、自分で支払うことができる様、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いでいる。携帯電話所持している方もいるが、見守り、声かけにて電話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は暖かみのあるものを使用し、冷暖房完備にて必要に応じ使用している。共有スペースには季節感をだす様、壁画にも工夫している。	玄関には生花、フロアには利用者の手作り作品や行事の写真が飾っており、季節を感じることができる。また、ソファや畳コーナーも用意されており、それぞれが好きな場所でくつろぐことができる。温度、湿度管理も配慮している。窓があまり大きくないため、照明で明るさをカバーしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人同士、ソファなどでゆっくりテレビ、DVD、カラオケなど楽しんでいる。畳スペースに冬はカーペットを敷き、ゆったりできる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込み、家族と一緒に設置、在宅と同じ状態を整え、安心して過ごせる様にしている。	備え付けはエアコンとカーテンのみで、そのほかの物は自宅より持ってきてもらうことで自分の部屋と認識できるようにしている。ベッドや仏壇、タンスなど個々に部屋が違い、本人の思いを大切にした居室作りを実践している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関のスロープ化、手すり等設置している。ご本人の好きな目印により、自室がわかるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200628		
法人名	社会福祉法 人薫風会		
事業所名	グループホーム ひだまり (2階)		
所在地	岡山県倉敷市連島1丁目1-13		
自己評価作成日	平成 25年 7月 29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvoCd=3390200628-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25年 9月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（2階ユニット）

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所指針をあげ、職員一同で実践に努めている。理念の理解が十分できていない事もあるため、再度確認をしていく。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時あいさつや農家の方と作物の育て方について話をしたりしている。参加可能行事には積極的に参加する様、努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅生活の方のご家族からの相談等には助言等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのご意見、ご要望は速やかにサービスに取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状ではできていない。今後はもっと積極的に相談等行っていきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要以上の身体拘束は行っていない。研修を通し、職員間で周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、資料により虐待のないよう指導している。入居者様、職員のストレスにも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、成年後見制度を活用する。職員にもミーティング等にて説明をする。解りやすく研修を重ね、全員が周知出来る様、努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族には説明し、十分理解、納得して頂いた後、契約する様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口横に苦情箱を設置している。公的機関も紹介している。寄せられたご意見に対し、しっかり受け止め迅速に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを行い、問題点を話し合い、ケア統一できる様に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個別面談により働きやすい職場になる様、努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。必要に応じ、繰り返し研修を行い、チーム全体に知識、技術が浸透するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム分科会に参加し、情報交換を行っている。同法人内のグループホームと定期的なミーティングを行い、サービスの質の向上に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自己啓発できる方にはしっかり要望を聞き、確認しているが、意思疎通困難な方は、行動、表情からくみ取っているものの難しい所がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とこまめに連絡を取り、その都度要望に対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にはホーム生活に慣れてもらう様、支援する。個別ケアにて個々のニーズに合わせ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様としっかりコミュニケーションを取りながら、出来る事を無理のない範囲で行ってもらい、過剰な介護にならない様、指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事にご家族様の参加、ご協力にて行っている。一緒に過ごせる機会を多く持ち、ご家族にも役割を持ってもらえるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の友人の面会、以前より参加している。サークル活動に参加している方もいる。今後も継続できるよう、声かけを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事を1階、2階合同で行い、入居者同士のふれあいの場を多くもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後も本人の様子を見に行き、必要に応じ、法人グループ施設への紹介など継続した関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見、希望を聞き、できる限り、意向にそえる様、支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンド表、ご本人様、ご家族様より具体的な情報を聞き、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を詳細に記入し、個別の生活状態、精神状態等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望、要望を取り入れ、その人らしく生活できる様プランを考えている。日常的に職員間で話し合い、プランの見直し等に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡ノート、口頭伝達などを活用し、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対し、対応可能範囲内できる限り取り組んでいくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、情報交換を行い、参加可能な行事には積極的に参加している。町内会との協働は難しい所がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院への受診、往診には職員が代行にて付き添うが、診療科目にない受診についてはご家族に同行して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない。協力病院の看護師へ相談し、受診指示を受ける様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的にケースワーカーや看護師と連携を図っている。入退院時にはスムーズな対応ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。チームカンファレンスにより、医療、介護面で重度化した場合は法人内の事業所にて対応出来るよう調整している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成している。毎日、申し送り時、マニュアルに添い、対応方法を繰り返し徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様参加にて訓練を行っている。避難経路、方法のマニュアルに添い、毎日訓練している。消火器、スプリンクラーを整え、火事を起こさない様指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、態度には十分尊敬の念を持って行っている。個人的な話については自室にて話すようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行により言葉で表せない方の要望をしっかりとくみ取れる様、支援している。自分でできる所は時間がかかっても自分で選んでもらう様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるものの、ご本人の要望、体調等によりゆっくり過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に、気温、季節にあったものを選んでる。月1度、訪問美容を手配し、毛染め、パーマ等おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事準備は難しいが、食後の片付け、食器洗いなど、無理のない範囲でお手伝いを楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量、嗜好に合わせ個別対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後毎回、声かけ、見守りにより、自分で行って頂く。義歯の方は毎晩洗浄液を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけによりトイレ誘導をしている。職員間でも声をかけあい、誘導時の声かけにも工夫し、全員が同じ支援ができるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理録に排便の有無を記入し、個々のパターン把握に努めている。細目に水分補給を行い、散歩などによる運動にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は一応決めているが、本人の希望により随時対応している。入浴時間帯は日中に行っているが、ゆっくり入浴して頂くよう順番や入浴方法を個別対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースですごしてもらっている。昼夜逆転傾向の方には日中活動できる様考慮し、夜、ゆっくり休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っている。説明書は記録簿にはさみ、情報共有している。服薬確認は職員2名で行い、ダブルチェックにて誤薬を防いでいる。飲み込み確認をする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならない程度のお手伝いをして頂き、役割分担をしている。個々の希望を取り入れ、レクリエーションも提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天以外できる限り散歩に行っている。ご家族の協力を得、外出している人も多い。車の使用時間に制限があり、外出にも制限がでしまう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方がほとんどいない。何人かの方はご家族と相談の上、少額の金銭所持し、買い物時、自分で支払いできる様、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いでいる。携帯電話所持している方もいるが、見守り、声かけにて電話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は暖かみのあるものを使用し、冷暖房完備にて必要に応じ使用している。共有スペースには季節感をだす様、壁画にも工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人同士、ソファなどでゆっくりテレビ、DVD、カラオケなど楽しんでいる。畳スペースでもゆったりできる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込み、家族と一緒に設置、在宅と同じ状態を整え、安心して過ごせる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関のスロープ化、手すり等設置している。ご本人の好きな目印により、自室がわかるよう支援している。		